

少年平和と

友情の翼



令和4年度報告書

沖縄県 地図



- ① 那覇空港
- ② 首里城
- ③ 平和祈念公園
- ④ ひめゆりの塔
- ⑤ 糸数の壕
- ⑥ ホテルオーシャン那覇国際通り
- ⑦ みゆきハマバルリゾート
- ⑧ 沖縄美ら海水族館
- ⑨ 道の駅かでな

事前研修 (7月10日)



みんな初対面
大切な出会いの始まりです。



長崎原爆資料館の見学をして、原爆被爆
の実相について学習しました。



沖縄研修に向けて沖縄戦の証言
ビデオで学習をしました。



沖縄研修
1日目
(8月18日)

首里城



沖縄に到着して、守礼の門の王様が通る真ん中の門を通りました。



首里城公園内の
旧第32軍司令部壕跡

那覇市役所
表敬訪問



知念覚副市長を表敬
訪問しました。



沖縄県営平和祈念公園

沖縄研修
2日目
(8月19日)

沖縄戦で亡くなった長崎県出身者のお名前が刻まれた長崎県の礎で献花・黙とうしました。

長崎県の礎



沖縄戦などで亡くなられた24万1千余名の方々を追悼し献花・黙とうしました。

平和の礎



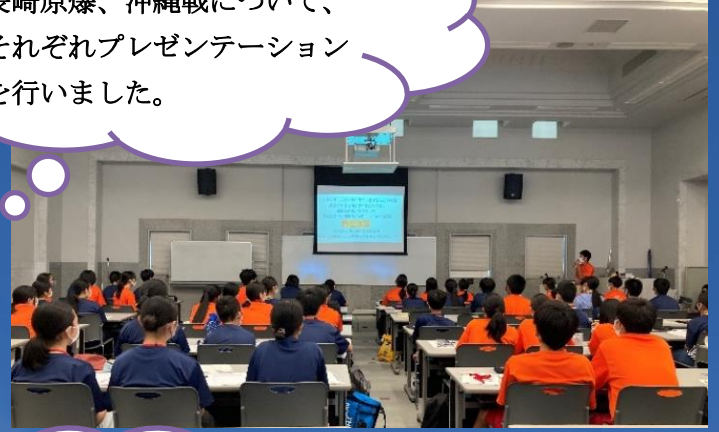
長崎市の「誓いの火」も合火された「平和の火」の前で那覇市立松島中学校の参加者と合流しました。

平和の火



沖縄県平和祈念資料館

長崎原爆、沖縄戦について、
それぞれプレゼンテーション
を行いました。



松島中学校の生徒と平和
について意見交換し平和
交流を深めました。



ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆり学徒隊の体験を受け継いだ説明員の方からお話を伺いました。



ひめゆり学徒隊として動員され亡くなられた方々に献花し黙とうしました。



ひめゆりの塔

沖縄戦においてひめゆり学徒隊が体験した様々な展示を見学しました。



アブチラガマに入って、途中、懐中電灯のあかりを消して、暗闇の中で当時の様子を思い浮かべました。沖縄の参加者とはここでお別れしました。

糸敷の壕 (アブチラガマ)



嘉手納飛行場



道の駅かでな

沖縄研修
3日目
(8月20日)

沖縄美ら海水族館

いよいよ最終日、楽しみに
していた美ら海水族館に
やってきました。



班のみんなと一緒に・・・
3日間でもとても仲良くなる
ことができました。



いよいよ3日間一緒に過ごした
仲間とお別れの時が近づいて
きました。



1. 事前研修

- 目的 ① 沖縄での平和学習を実り多いものにするため、長崎原爆や沖縄戦について、施設見学やビデオをとおして基礎的な学習をする。
 - ② 長崎原爆や核兵器の現状などについて、沖縄の中学生に向けて発表を行うための練習を行う。
 - ③ 集団生活や団体行動についての約束を確認し、長崎団としての連携と友情を深める。
- 期 日 7月10日(日)
 - 場 所 長崎原爆資料館

時 間	内 容
8:30	集合・受付開始(原爆資料館・平和学習室)
9:00	自己紹介、オリエンテーション
10:00	平和学習(家族・交流証言)
10:40	長崎原爆資料館見学
12:00	昼食
13:00	沖縄についての学習 沖縄戦体験者証言記録映像
	班別学習
	役割準備、練習
16:00	意見交換練習
16:45	閉会式
17:00	解散

2. 長崎市長表敬

- 目的 沖縄での平和学習の意気込みを市長、教育長へ伝える。
- 期 日 7月27日(水)
- 場 所 長崎市議会 第1~2会議室

時 間	内 容
13:45	集合(長崎市役所 1F)
14:00	表敬 参加者代表あいさつ、班リーダーあいさつ
14:30	終了

3. 沖縄研修

- 目的 ① 沖縄戦や沖縄の歴史を学び、平和の尊さを学ぼう！
② 長崎原爆の被害を伝えよう！
③ 友達をたくさん作り、友情を深めよう！
④ 決められた役割を果たし、約束を守って集団行動ができるようになろう！
- 期 日 8月18日(木)～20日(土)
- 場 所 沖縄県(那覇市、糸満市、南城市、中頭郡嘉手納町、国頭郡恩納村、国頭郡本部町)

【8月18日(木)】

時 間	内 容
8:00	集合(長崎原爆資料館)
9:00	長崎原爆資料館 発
11:30	福岡空港 着
13:00	福岡空港 発
14:45	那覇空港 着
15:15	那覇空港 発 那覇市役所表敬訪問団は別行動。首里城公園で合流
15:45	首里城公園 着 西のアザナ、首里城、東のアザナ、旧第32軍司令部壕跡等 見学
17:30	首里城公園 発
18:00	ホテルオーシャン那覇国際通り 着
18:30	夕食
19:30	オリエンテーション
19:45	入浴、感想文作成、自由時間
22:00	就寝

【8月19日(金)】

時 間	内 容
6:30	起床
7:00	朝食
8:10	ホテルオーシャン那覇国際通り 発
9:00	平和祈念公園 着 長崎県の礎、平和の礎 <献花> 沖縄県平和祈念資料館 <那覇市との意見交換・展示室見学・記念撮影>
12:10	平和祈念公園 発
12:20	昼食会場 着 昼食
13:10	ひめゆりの塔献花、ひめゆり平和祈念資料館見学
15:00	ひめゆり平和祈念資料館 発
15:20	糸数の壕 着
16:40	糸数の壕 発
17:40	道の駅かでな 着 見学・休憩

18:20	道の駅かでな 発
19:00	みゆきハマバルリゾート 着
19:20	夕食 オリエンテーション
20:20	入浴、感想文作成、自由時間
22:00	就寝

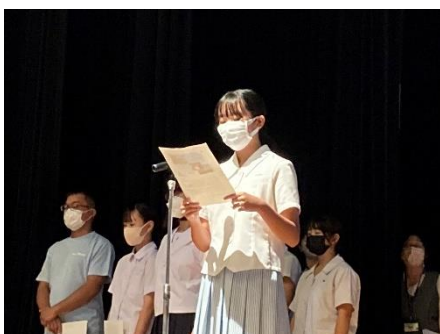
【8月20日(土)】

時 間	内 容
6:30	起床
7:00	朝食
8:15	みゆきハマバルリゾート 発
9:15	沖縄美ら海水族館 着 見学
11:10	沖縄美ら海水族館 発
13:30	那覇空港 着
14:50	那覇空港 発
16:35	福岡空港 着
17:10	福岡空港 発
19:20	長崎原爆資料館 着 解散

4. 平和学習発表会

- 目的 長崎市内の中学生が一堂に会し、日頃取り組んでいる平和学習の成果などの発表を
ととして、各学校における生徒の平和への取り組みを発展させる機会とすることを
目的としている。
- 期 日 8月25日(木)
- 場 所 平和会館ホール

時 間	内 容
9:30	集合・受付開始(平和会館ホール)
10:00	開会あいさつ レクリエーション(うそつき自己紹介) 各学校の取り組み発表 いいところ探し～感想フィードバック～ 長崎市内の平和活動 少年平和と友情の翼参加者代表の発表 青少年ピースボランティアの平和活動の紹介 全体まとめ
12:00	解散



5. 参加者の感想

1班

土井首中学校 1年

私は少年平和と友情の翼に参加して、戦争のことについてもっとくわしく知りたい、と思うようになりました。今まで、戦争といえば長崎か広島で沖縄の地上戦のことは、ひめゆり学徒隊や鉄血勤皇隊という名前くらいは知っていたものの、裏を返せばそれくらいしか知らず、全くの知識不足で、今回どれほど知ろうとしていなかったのかがよく分かりました。現地に行ってみたことで、本などで学ぶより、もっとくわしく、そのむごたらしさを知ることができました。とても良い機会になったと思います。

松島中学校の生徒さんと交流をして、自分の地域のことを伝え合うというのはとても良いと思いました。沖縄戦だけでなく、長崎の方も学びなおそうと強く思いました。

私が1番興味をもったのは第32軍司令部壕です。とても貴重な歴史的遺構が失われるリスクもありますが、激しい艦砲射撃や空襲にも耐えられ、周囲をよく見わたせるため、仕方がなかったのでしょうか、とても悲しく思いました。

沖縄戦と長崎の違いがよく分かりました。長崎に落とされた原子爆弾は一瞬の間でしたが、沖縄は地上戦だったので、じりじりと追いつめられ、長崎とは違う怖さだったのだらうと思います。次は、私達が戦争を語りついで行く必要があると思いました。

青雲中学校 1年

沖縄研修では、沖縄の地上戦について新たに、たくさんを知ることができました。特に、私が一番心に残ったのは「糸数アブチラガマ」です。ここでは「悲劇の学徒隊」と呼ばれたひめゆり学徒隊、看護婦、軍医が配属され、約600名もの負傷兵が運びこまれてきたそうです。実際に入ってみると、とても暗く、寒く、湿っていました。ガイドさんの話を聞いて、私が一番印象に残ったのが、ひめゆり学徒も立入り禁止とされていた使えなくなった重傷兵らが運ばれてくる、光の入らない一番奥の部屋の話です。ここに運ばれてきた重傷兵らは食料や水さえも与えてもらえず、広がる暗闇の中で亡くなっていったそうです。この部屋に運ばれた重傷兵たちは、誰もここからは出られなかったそうです。実際に、どのくらい暗いのか、かいちゅう電灯を消して体験してみました。そこには、ペンキで真っ黒にぬりつぶされたように一面暗闇が広がってゴツゴツとした岩の影さえも見えませんでした。重傷兵たちがどのように奥の部屋で過ごしていたのかを想像すると、胸が痛くなりました。集団自決をした人や手榴弾で自決した人など、自殺に追いこまれるほどアメリカ兵がせまってきていたんだと思いました。沖縄地上戦について学んでみて、やはり戦争はあってはならないものだ改めて実感しました。

日本全国や世界には、沖縄地上戦を知らない人や、長崎、広島に原爆が投下されたことを知らない人々がたくさんいると思います。そんな人々に、私たちが伝えていかなければ、これからも世界各地で戦争が起こりうると思うので、周りにいる友達や知り合いにも「伝える」ということをしていきたいです。

淵中学校 2年

私はこの「少年平和と友情の翼」に参加して、沖縄での戦争の悲惨さを知ることができました。平和祈念公園では、「捨て石作戦」と呼ばれる日本本土を守るための持久戦が行われたこと、また、住民の犠牲者が兵士の犠牲者を上回ったことなど、知らなかったことをくわしく知ることができました。さらに、幼馴染同士が罰しあったり、足手まといの人は殺されたりと、戦争に出た兵の人のことも知れてよかったです。

「ひめゆり学徒隊」についても学ぶことができました。名前だけでしか知らなくて、くわしいことは何も知りませんでした。ですが、「ひめゆり平和祈念資料館」で、宮城喜久子さんの体験談を見て、埋そうの話や、攻撃の話などを勉強することができました。その中でも、特に印象に残っているものは、解散命令のあと、100名あたりが命を落としたことです。また、ほ虜になることは恥だと言われていたことも印象に残っています。

最後に、私はこの活動に参加して、長崎だけではなく、沖縄の戦争についても、知ることができたのでよかったです。これからは、私達がそれを発信して、平和な未来をつくっていきます。一緒にこの研修に参加した長崎・那覇の中学生の方、ピースボランティア、引率の方、本当に有難うございました。

長崎大学教育学部附属中学校 2年

ぼくは、この3日間で感じたことが2つあります。

一つ目、戦争の恐ろしさ。

2日目、ひめゆり平和祈念資料館へ行き、宮城喜久子さんについての動画を鑑賞しました。宮城さんについて特に心に残ったことがあります。宮城さんは米軍の捕虜になるまで、米軍の捕虜になると「ひどいことをされる」「米軍は鬼」と教えられていたそうです。

しかし、実際に米軍の捕虜になると逆に米軍は日本人のケガなどの治療をしていたそうです。早く捕虜になっていれば、多くの沖縄の人々は助かりました。戦争によって生まれたプロパガンダにより、より戦争を大きくし、より被害をもたらし、終戦から78年経った今でも、心におった傷を抱えている人は、たくさんいることを学びました。

2つ目、日常のありがたさ。

今の自分は3食すべて食べて、勉強をし、運動をし、友人と遊び、夜は静かにゆっくり寝ることができます。多くの人は、普通のことだと思いますが、戦時中の子どもからすれば、夢のような生活だったでしょう。

今回の研修で、大変貴重な経験をすることができました。コロナ禍という大変な状況の中、このような機会を作っていただきありがとうございました。自分が今いる環境の中で、どのように社会に貢献できるか考えながら生活していきたいです。

丸尾中学校 3年

事前研修では班の人と全く喋れず不安しかなかったけど、とても楽しかったです。1日目の市長表敬では、私が見ている「ちむどんどん」のポスターが貼ってあったり名刺交換をしたりとワクワクする出来事ばかりでした。市長さんに会いに行くまでの車では、1年生の塩野さんと仲良くなり、首里城も一緒に回れたので嬉しかったです。2日目は沖縄の松島中学校の人たちと交流しました。松島中の1班の人は面白い人が多くて楽しかったです。ひめゆりの塔では4班の人と仲良くなり、

沖縄の友達第1号になってくれました。

ガマは暗くてすべりやすくて怖かったです。そこでは沖縄の1班の人が「大丈夫？」や「気をつけてね」と声をかけてくれて優しくかったです。3日目は美ら海水族館に行きました。とても広くてきれいでした。帰り際に2班のみらいちゃんと写真をとったり、おそろいのキーホルダーを買いました。長崎につくと、まだ沖縄にいたかったなと思うほど3日間がとても楽しかったです。高校生になったらピーボとして沖縄研修に行きたいと思います。ありがとうございました。

岩屋中学校 3年

今回の研修旅行では、今まで知らなかった沖縄の地上戦について詳しく知ることができました。長崎県での平和学習はどうしても原爆についての内容が多くなってしまい、沖縄の地上戦や東京大空襲についての学習があまりできずにいましたが、実際に平和祈念公園に行って平和の礎と犠牲者の方々の名前が彫られた石を見るととても被害が大きかった戦争だと分かりました。その中には沖縄の人だけではなく、全国から兵として集められた方の名前もあり、戦争に関係しているのは戦地となった沖縄だけではないことを感じさせられました。

私が最も衝撃を受けたのは、ひめゆり学徒隊についての話です。当時16歳でひめゆり学徒隊の一員だった宮城喜久子さんのビデオを見て、暗いガマの中、1人あたり約30人の負傷兵を看病していたこと、病院の場所を南へ移動させるときに自分で歩けない兵士には「薬」と称して毒薬を渡し、ガマの中において移動したこと、6月18日に突然解散命令が出て仲間や先輩がアメリカの自動小銃に撃たれて自分の上に倒れ込んで来たこと・・・言葉を発することができなくなるくらい悲惨な内容で、思い出すだけで涙が出てしまいます。

広島や長崎に原爆が落とされたことや、沖縄・世界各地で戦争が起こってしまったのは、紛れもない事実です。今の世界を見ると長崎を「最後の被爆地」にすることや、沖縄を「日本で唯一の戦地」として継続していくことは難しいと思います。でも世界に住む一人一人が「平和な世界」に向けた行動ができるように、まずは自分から日頃の挨拶や友達と仲良くすることを意識して、平和な世界に繋げていきたいです。

2班

桜馬場中学校 1年

1日目は一人も知っている人がいなくてとても心配でした。ですが、一緒に色々な所に行っている間にだんだん仲が良くなり、楽しく過ごすことができました。1日目で特に印象に残っているのは、首里城です。一番有名な正殿はなかったけれど、とてもすごい建物でした。

2日目は、那覇市の中学生との交流で友達を作ることができてとても楽しかったです。2日目で特に印象に残っているのは、ひめゆり学徒隊の方々のお話と、アブチラガマです。ひめゆり学徒隊の方々のお話はとても悲しくて胸が痛む話でした。アブチラガマは、真っ暗で、ここに何日間もいると考えたらゾッとしました。

3日目は、美ら海水族館に行きました。とっても魚がきれいでジンベイザメの大きさに圧倒されました。超楽しかったです。

今回は友達ができ、色々な経験もできて、とても楽しかったです。この3日間は忘れられない思い出になりました。

西浦上中学校 1年

私は改めて戦争をもう二度としてはいけないと思いました。なぜなら、たくさんの大事な人を失う戦争はしてはいけないと思うからです。

1番心に残ったのは、アブチラガマです。アブチラガマは、とても暗くて、静かでひんやりとする場所でした。私は懐中電灯を消した時、体がぞわぞわしたような気がしました。

アブチラガマで、負傷兵たちがたくさん運ばれてきたと聞きました。アブチラガマでは、ひめゆり学徒隊のみなさんが、医療のお手伝いをしていたと聞き、「もし私だったら・・・」と考えると、怖くて、逃げだしてしまうのではないかと思います。

思い出に残ったことは、副市長さんに挨拶をしたことです。とっても緊張して、手も震えていましたが、きちんと発表することができました。初めて名刺をもらったり、おいしいお茶がでてきたのも1つ1つ思い出です。

沖縄戦で、沖縄県民の約25%の人が亡くなりました。私は戦争で亡くなる人をつくりたくありません。今、ロシアとウクライナが戦争をしてたくさんの人が亡くなっています。そんな世界を平和にするために、私は学んだことをいろんな人に伝えていきたいです。

長崎中学校 2年

1日目は、同じ中学校の人がいなかったのもとても緊張していたが、バスや飛行機などを通じて緊張感がなくなり気軽に話すことができるようになった。また、首里城跡では再建のために多くの人たちが工事などをしていたりしていたことから沖縄の人たちは地元愛が強いと思った。

2日目は、沖縄の中学生たちとの交流で沖縄戦争のことについて教えてもらった。沖縄の生徒たちは説明のやり方がとても上手かったので聞きやすかった。沖縄戦争では長崎のように原爆などの一撃で大量に殺されたのではなく地上からの敵兵などからの銃撃で10万人以上の人殺されているということを知ってどこの場所でも戦争というものは恐いものなんだと改めて感じた。アブチラガマの中に入ったときは何も見えなくてこの中で何ヶ月も過ごしていたと想像すると自分が生きて帰れるかどうか分かりません。

3日目は、美ら海水族館に行っている魚を見た。初のジンベイザメを見た時は圧倒された。この思い出は二度と忘れません。また、機会があればぜひ参加したいです。

滑石中学校 2年

私は、この少年平和と友情の翼に参加して印象に残ったのは、沖縄の中学生との交流とひめゆり平和祈念資料館、糸数の壕の3つです。

平和祈念資料館では、長崎の原子爆弾などについて沖縄の地上戦についてスライドで発表し合い、お互いの知識を深めることができました。

ひめゆり平和祈念資料館では、生存者の証言映像で、きくこさんのお話を聞きました。沖縄の地上戦では、いつアメリカ兵がせめてくるかが分からないガマの中での救護活動、傷ついた兵士の切断手術の手伝い、傷にわくウジの除去など、今の私たちでは考えられないことを、私たちと同年代の女学生たちがしていたと聞きました。そして資料館の中では、亡くなったたくさんの生徒たちの顔写真や、戦時中の様子を伝えるための文集のようなものがあり、当時の沖縄戦の激しさ、恐ろしさを知ることができました。

糸数の壕、アブチラガマでは、暗い中、懐中電灯一本で、とても狭く、足場が悪い通路を進み、

カマドや井戸、石でつくられた壁などを見ました。昔、立入禁止区域だった場所では、全員でライトを消し、当時のガマの中の暗さを体験しました。時間がたっても目は慣れることがなく、ここで見捨てられた重傷の負傷兵たちがたくさん運ばれた絶望の部屋だと考えると、とても怖かったです。そして、爆弾で攻撃された影響で、天井につきささった金属片なども見ることができ、こげ臭いような、つんとするようなにおいも感じることができました。

沖縄では、さまざまな遺構を見てまわり、戦争の怖さを体感することができました。また、平和を未来に伝えていくためにいろいろな施設や「命どう宝」のような言葉もあり、平和の大切さをあらためて感じました。悲惨な戦争を二度とおこさないように、私たちができる平和活動に率先して参加し、世界にむけて発信できるようにしたいです。

海星中学校 2年

私は今年の少年平和と友情の翼での沖縄研修を通して、沢山の事を学ぶことができました。最初沖縄へ向かう時は、とても緊張していて正直不安ばかりでした。けれど、首里城などをまわっていくにつれて友達もでき、会話が弾み楽しさが増しました。首里城では復旧の途中である今だからこそ見れるものが沢山ありとても貴重でした。

平和祈念公園では沖縄戦で亡くなられた方々の名前が書かれている物を見て、亡くなった方が多いことを身を持って感じることができました。また、沖縄の中学生との交流会では、沖縄戦のプレゼンを聞き、ひめゆり学徒隊の仕事など知ること、意見交換を通して、話すことができ、とても良かったです。

アブチラガマでは、すごく小さなところや三角になっているところ、中からでてきた物などを見ると、当時の状況を想像でき、心にくるものがありました。1度懐中電灯を消した時にはずっと慣れることのない暗さにとてもびっくりしました。

最終日の沖縄美ら海水族館は前から行きたいと思っていた場所だったので、すごく楽しかったです。

短い限られた時間ではありましたが、班の人たちとどこに行くのかを決めて、全力で楽しむことができたので良かったです。今回の研修を通して学んだことを今後活かしていきたいです。

深堀中学校 3年

沖縄研修に行って、一番思い出に残ったのは、友達ができただけです。長崎の他の中学校の友達や沖縄の中学校の友達とたくさん出会えて良かったです。皆、とても優しく、おもしろくて、ホテルの生活がすごく楽しかったです。

また、沖縄の文化や歴史、沖縄戦のことなども学ぶことができました。沖縄に来たのは初めてだったので、首里城や美ら海水族館を見に行けたことがうれしかったです。首里城は、復元中だったけど、その姿は今しか見れないからとても貴重だと思いました。そして、楽しみにしていた美ら海水族館は、短い時間でしたが、班のみんなと楽しむことができました。初のジンベイザメに大興奮でした。まわれなかった所がたくさんあるし、イルカショーも見れなかったから、今度、旅行に来たときに、また来たいです。

勉強中学ぶことが多かった3日間だけど、楽しいこと、思い出に残ることがたくさんありました。とても貴重な経験ができたので、沖縄研修にこれて、本当に良かったです。

3 班

淵中学校 1年

沖縄の地上戦で日本兵の人が日本兵の人の足をひっぱったら殺したり、アブチラガマで監視員の人が地元のおじいさんたち4人を射殺していたということをきいて、沖縄では長崎とはちがった地上戦で無差別に殺していたことが心に残った。

ひめゆりのとう（ひめゆり平和祈念資料館）のちかくにある伊原第三外科壕で私たちと同じ年くらいの女の子が勉強もせずに兵士の看病をして、夜にはねらずに兵士の人やみんなのために、お米をたいて、丸めて兵士の人とみんなにくばっていたということをきいて、たいへんだし家族に会えず、さびしかったんだろうなと思った。また、友達や先ばい、先生の大切な命をうばわれて、悲しかったと思った。なので、沖縄戦でどんなことがあったのかをいろいろな人に伝えていきたいと思った。

精道中学校 1年

今回、初めて沖縄戦の事について、深く学び知らなかった事がとても多かったです。長崎で起こった原子爆弾はたった一発で全てを破かいしたけれど、沖縄は長期にわたり、また地上で兵士対兵士・民間人なので、長崎とは違った恐怖を感じました。今回の旅で一番印象に残ったのは、アブチラガマです。入ってみると思った以上に暗く当時ここにいた人は、絶望しかなかったのではないかと思います。明るいことも考えられない、もう生きられないと思うしかないような状況に自分だったらなるだろうなと思いました。

ひめゆり祈念資料館では、自分と同世代の方々がひめゆり学徒隊として戦っていたと知り、自分ももしその状況におかれたらと想像すると絶対できないなと思いました。講話の中で「一発で死にたい」という言葉を聞き、死んでもいいと思えるぐらい、残こくでつらい戦場と痛みを感じずすぐ死にたいという思いが伝わってきました。また、解散命令がでたとき、仲の良かった友達を置いて出ていく勇気、教師と一緒にガマを出れていけば少しは安心して逃げる事ができたのかなと思いました。

今回、沖縄戦について学べるたくさんのしせつに行き、戦争が人の心をうばっていくことの怖さを知り、このような事をおこさないよう、身近なことから平和を維持する活動をおこなっていきたいです。

西浦上中学校 2年

今回参加してみて、沖縄戦争について詳しく知れて、心が少し苦しくなったりもしたけど、今回参加したから出会えた学校の違う同じ班のみんなのおかげで、とても楽しいと思えたり、いろいろ心が動かされた。いろいろな意味でたくさんの体験ができました。

私が一番心に残ったことは、沖縄県平和祈念資料館を見学したことです。初めは、長崎原爆資料館と同じ感じだと思っていたら、ふんいきは似たかんじがあったけれど、皮ふや顔が分かる状態で亡くなっている写真が何枚もあり、心が苦しくなりました。また、そこにガマの再現された所があり、怖かったけれど班のみんなが一緒に行ってくれたおかげで入ってみることができました。

また、そこに入ったことで少し勇気が出て、ひめゆりの塔の所のガマや、資料館、アブチラガマも心が折れずに乗り越えられたと思います。一番最初の心を大きく動かしてくれたのが沖縄県平和祈念資料館だったので、一番印象深かったです。また、アブチラガマは、入る前からとても怖くて、

どんな所だろう、どうなるんだろうと不安でたまらなかつたです。入ってみても怖さはやまず今思うと、どんな所だったかは思い出せるけど、自分がどう思ったかなどは思い出せません。それほど、ガチガチだったんだなと思います。

ひめゆりで聞いた講話は、イメージが1番しやすく、沖縄の中学生の発表も分かりやすかつたです。このように沖縄戦争の怖さをたくさん知ることができ、平和について深く考えることができました。

また、班のみんなとは、ずっと2泊3日一緒にいて、3班のみんなは元気で、明るくて、移動時間もホテルの時間も美ら海の時間もたくさん話して、笑って、写真もとって、とても楽しかつたです。私は、少年平和と友情の翼に参加できて本当に良かつたです。

県立長崎東中学校 2年

ぼくが沖縄研修で、特に心に残ったものは3つあります。

一つ目は、二日目の平和祈念資料館での松島中学校との意見交換です。沖縄の中学生たちの発表が長崎の中学生と同じくらい上手で分かりやすく、発表から、沖縄戦の悲惨さが学べました。また、日常で平和でないと感じる場面とその対策の話し合いのときには、長崎だけでなく沖縄の意見も多数あってとてもいい機会だったと思います。

二つ目は、二日目のアブチラガマの見学です。中は、ライトがないとほとんどなにも見えない暗さで、当時避難していた人たちの心境を体験できました。また、そんなガマからの生還者がいらっしやることを知って、生きる希望を持って生還していてすごいと思いました。

三つ目は、美ら海水族館です。ジンベイザメの大水槽やダイオウイカの標本があつて、とても楽しかつたです。その他にも空港での買い物やバスでのトランプなど言ってしまうと全てが楽しかつたし、いい思い出になりました。この旅を企画していただいた全ての方々へ感謝をしています。

土井首中学校 3年

今回、私は少年平和と友情の翼に参加できて本当によかつたです。

今まで、長崎の戦争については、学んだことはあるけど沖縄県の戦争について学んだことはなく、毎日、新しいことばかりで、とても楽しかつたです。

また、普通は知りあうことのない他の中学校の友だちとホテルに泊まったり一緒に行動して、仲良くできたことも良い思い出です。

最後に、翼に参加したことで、友だちの幅が広がり新しいことを体験できたという思い出を一生忘れず、自分のために役立てられるよう、長崎に帰りたいと思います。

橋中学校 3年

3日間という大変短い間でしたが、私にとっては、一日一日が充実しており、かつ濃厚な3日間でした。

長崎に在住している私たちにとって、8月9日に原子爆弾が落とされたことは、決して忘れることのできない悲しい出来事ですが、それと同様に、沖縄の方々にも、本土の激戦地として、忘れられない戦争の傷跡がいまだにあることを知りました。

特に印象に残っているのは、「アブチラガマ」です。今まで、そのような洞窟に足を踏み入れる経験が無かつたので、どんな所なのだろうかと、沖縄に出発する前から気になっていました。みんな

で灯りをつけた懐中電灯を持って、中に入ったためか、その時は、そんなに恐怖を感じなかったのですが、全員で懐中電灯を消すと、真っ暗で何も見ることはできませんでした。そんな真っ暗な環境の中で、私達と同年ぐらいの子供達が生活をしていたり、時には、手術の手伝いをしたりしていたと知り、私は、「その子供達は、毎日どんな思いで、この洞窟の中で暮らしていたのだろうか」

「未来に希望を持てる毎日だったのだろうか」と思うと胸が熱くなりました。もし、私がお場にいたら、余りの過酷な環境に、生きながらえることができなかつたかもしれません。

そして、もう一つ、心に残っていることは、現地の沖縄の中学生のみなさんとの交流です。沖縄戦のことを具体的に教えてもらい、学校の教科書では、ほんの数行しか書かれていない沖縄戦の悲惨さを知ることができたのは、沖縄まで実際に足を運んだからこそであって、今回、コロナ禍の中であっても「少年平和と友情の翼」に参加して良かったとつくづく思いました。話してくれる言葉は、みな重みがあり、長崎の私達と同様に、沖縄の中学生も、2度と戦争が起きないように、平和について学習を重ねていることを感じました。

そして、最終日の美ら海水族館にも感動しました。特に、ジンベエザメが雄大に泳ぐ様子は圧巻でした。私は、4人兄弟がいる6人家族ですが、家族一人ずつのキャラクターに合わせて、海の生き物のマスコットをお土産として買って帰ったのですが、家族みんながとても喜んでくれたのも、嬉しかったです。

現在、世界を見渡すと、戦争の犠牲になっている人々がいまだに絶えません。そして、原子爆弾よりも威力がある核兵器が数えきれないほど存在しています。戦争を起こすのも人間、平和を願うのも人間、ならば、私は平和を願い続ける立場にいたい。この3日間で、私は「まずは、自分の周りから平和を広げていこう」という思いを強くしました。まだまだ微力ですが、諦めずに行動に移したいと思います。3日間、貴重な体験をありがとうございました。

4 班

精道三川台中学校 1年

首里城や美ら海水族館等、沖縄戦のことだけではなく、沖縄についてもくわしく知ることができました。

すでに原爆についても知りつくしていたと思っていましたが、プレゼンテーションでまだ知らないことも知れてよかったです。

沖縄県平和祈念資料館では、第二次世界大戦の歴史や戦争中の様子、証言コーナーでは戦争中の気持ち等、細かく戦争について知ることができました。また、ワークブックには、未来を展望するページがあり、未来につながる社会の知識を得ることができました。

僕だけかもしれませんが、飛行機に乗ったことがなかったので、乗れてよかったです。

他の人が、2000円札をおつりでもらっていたので、「運があればなあ…」と思いました。

道の駅かでなや美ら海水族館ではおみやげも買え、よかったです。首里城や道の駅かでなのおみやげは、沖縄らしい物が買えたので、クラスメイトや家族にあげやすかったです。美ら海水族館では、沖縄らしい物もありましたが、ジンベエザメのグッズが買えたり、すごくきれいな写真もとれたのでよかったです。

山里中学校 2年

私はこの沖縄研修で平和学習をして心に残ったことが3つあります。

1つ目は、元ひめゆり学徒隊の方の証言講話です。

16人という少ない人数で、何百人もの人を真っ暗なガマの中で看護活動などをしながら、アメリカ軍の攻撃から逃げていたことを知り、いつも死と隣り合わせだったんだなと思いました。

2つ目は、糸敷の壕（アブチラガマ）です。

ガマの中は足場が悪くて、手すりがないと歩くのが大変でした。さらに、中は真っ暗で、懐中電灯がないと何も見えませんでした。この暗闇の中で兵隊さんの看護をしていたひめゆり学徒隊のことを考えると、とても危険な場所で看護活動をしていたんだなと思いました。

3つ目は、平和祈念資料館です。

実際の戦時中の写真が多く展示されていて、目を覆いたくなる写真もありましたが、しっかり目に焼き付けて長崎に帰ったときにたくさんの人へ沖縄戦のことについて伝えたいと思いました。

祈念資料館にはガマの中を再現した模型があり、爆発音が流れたり、当時の人の人形も置いてあったりして、当時の様子がよく分かりました。最初は、事前研修の際に、長崎の原爆資料館に行って写真を見るのが怖く、応募するのを迷いましたが、今は応募して良かったなと思いました。なぜなら、長崎の原爆のことだけではなく、他の県での戦争のことも知ることができて、ますます、戦争は起きてはいけないことだと思ったからです。

沖縄の中学生とは、ちゃんと意見交換ができるか心配で緊張しましたが、親しげに仲良く接してくれました。緊張がほぐれ、たくさん意見交換ができて良かったです。今度は沖縄の方々も長崎に来て、一緒に長崎のことを勉強する機会があったらいいなと思いました。

今回一緒に研修に行った仲間とも、2泊3日を一緒に過ごして、絆が深まりました。また、このような機会があったら、ぜひ参加したいと思います。

三川中学校 2年

僕が少年平和と友情の翼に参加して思ったことは、沖縄戦がとても悲惨だったということです。平和祈念資料館やひめゆりの塔などで話を聞いたり、資料を見たりして知りました。

沖縄戦では、多くの方がぎせいになったんだなと思いました。そして資料館で見たもので心にのこっているのは、母親が赤ちゃんを殺したということです。赤ちゃんが泣くと、アメリカ軍に見つかってしまうので、自分の子供までも殺してしまうということが悲しいと思いました。松島中学校の人たちがプレゼン発表でひめゆり学徒隊について話していたことも印象的でした。ほとんどが麻酔なしで手術をしていたということにおどろきました。2人で60人以上の患者を見ていたというのがすごいと思いました。僕と同じくらいの人たちが多く亡くなったということを知って心が痛みました。

アブチラガマに入って思ったことは、とても暗いということです。ここで多くの人たちの手術をしていたと聞いて、大変だったんだなと感じました。もう二度と沖縄戦のようなことがあってはいけないと思いました。沖縄戦のことを知れた以外にも、友達ができたりして楽しい旅になってよかったです。

深堀中学校 3年

今回の少年平和と友情の翼での研修を通して、沖縄の戦争と長崎の戦争の違いなどを学ぶことができました。

1日目は、ほとんどが移動だったため、首里城がとても印象的でした。途中にあった狭い門は、

くぐる時に神様に一礼をするために狭くなっているという意味があり、また、首里城の中では、男性が入ってはいけない場所や、神様に女性が多かったため使いの人は女性が多かったと、ガイドの方が教えて下さいました。

2日目は、沖縄の中学生の人達と交流をして、戦争及び平和についての意見交換や資料館見学をして昼食も一緒に食べました。その中でも、アブチラガマの見学がとても印象的でした。ガイドさんと沖縄の子達とみんなで入ったときは、中はとても狭く、暗く、滑りやすくなっていて、声もよく響いていました。こんな狭い所に当時の人達はどのようにやって入っていたのかと思いました。

私がガマに入った時は、ライトを持って、靴を履いて、ヘルメットを被って入りました。でも当時はそんなものではなく、ひめゆり学徒隊の子達は裸足で明かりが殆どないガマの中で兵隊達の看護にあたっていたそうです。ひめゆり学徒隊の人達は、どんな気持ちでこのガマの中で生きていたのかと考えました。

私はこの研修で、私たちと同じ歳の子供達が二度と同じ思いをしないように、私たちが平和な世界をつくっていかうと思いました。

精道中学校 3年

今回、「少年平和と友情の翼」に参加し、地上戦の怖さ、友情の大切さを学ぶことができたと思いました。その理由は二つあります。

一つ目は、ひめゆり平和祈念資料館やアブチラガマなど沖縄戦のことについて学びに行ったことです。それぞれの場所で、原子爆弾とは違う怖さがあることを学びました。その中でも、アブチラガマは、当時の状態を知ることができ、自分と同じ年代の人たちのすごさをとても感じることができました。

二つ目は、異なる学年、学校の人たちと班を組んで活動したり、沖縄の松島中学校と交流したりしたことです。最初は緊張してしまい、話すこともできなかったけれど、活動を通してみんなで楽しむことができたことです。他の学校の人たちと交流することができ、「平和」について考えることができたと思います。

このような理由から、地上戦の怖さ、平和の大切さを学ぶことができたと思いました。

5班

緑が丘中学校 1年

僕がこれに参加した理由は親に参加を勧められたからです。

1日目は首里城を見学しました。世界遺産なだけあってすごくきれいでした。

泊まったホテルもきれいで楽しく過ごせました。

2日目は沖縄の中学生と平和祈念資料館で交流しました。自分達の地域の戦争のようすを発表しあい、資料館も見て回りました。沖縄の中学生達の発表はていねいに工夫されていました。

3日目には美ら海水族館に行きました。ジンベイザメを初めて見たり、おみやげを買ったりして楽しかったです。おみやげとして買った美ら海サイダーは飛行機で飲んで美味しかったです。

今回の平和の翼の研修で平和について学んだり、友達と遊んだりと色々楽しかったです。

また平和の関連のことには自分から参加してみたいと思います。

県立長崎東中学校 1年

僕はこの研修がとても貴重な経験になりました。

世界遺産でもある首里城では復旧作業中の城を見ることができ、貴重ないい体験ができました。沖縄県平和祈念資料館の平和の波が世界中に広がり、未来へとつながってほしいと思いました。

そして、一番印象に残ったのはアブチラガマです。ガイドさんの戦時中を想起する説明やガマの暗さなどから負傷した方々の苦しさ、ひめゆり学徒隊の方々の大変さを感じました。全員で明かりを消したときはとても怖かったです。

美ら海水族館には普段は見られないようなジンベイザメやウミガマが見られて、とても楽しかったです。

フィールドワークだけでなく、沖縄料理や音楽にも触れることができました。

友達もでき、とても楽しい夏の思い出になりました。

山里中学校 2年

私は、沖縄の地上戦について何も知らなかったので平和学習でのことはすべて頭に残っています。

平和祈念資料館の見学では、原爆投下の長崎と違った地上戦であったため、亡くなられた方が多く、残酷な戦いだったということがはっきりとわかりました。その様子として撃たれた死体がかさなっている写真や、頭だけがぼつんと置かれている写真がありました。他にもたくさんの資料があり、逃げ道がなかったことがよくわかりました。

ひめゆり学徒の祈念資料館では今までに触れたことや聞いたことがない内容だったので、資料を見て、その様相を知り進むにしたがって、頭が混乱しました。同じくらいの年の子が負傷兵の看護をしていること、さらには負傷兵の足や手を切り落としてる事実、私は衝撃を受けました。また、真っ暗で兵士の汗や血の匂い、排泄物の匂いがするガマの中で水を汲むなどして働くのです。アメリカの兵士が来るかもしれないという不安の中で、私には到底無理だと確信しました。

学徒隊の宮城喜久子さんの証言では、十年間の戦争教育の中で「アメリカは鬼だ」と教えられたと言われていました。そのため、アメリカ兵に囲まれたときは殺されると思ったそうです。しかし、実際は違い、「アメリカ兵に助けられ、収容所に行った」と言われていました。そこで、喜久子さんは「無知の怖さを感じた」と話されており、私は「確かにそうだな」と思いました。何も知らない中、当時の日本の戦争教育だけを頼りにしてたら、そのような事が起こって本人が混乱したり、とてつもない不安に襲われたりするのではないかと思いました。

その後、当時の方が過ごしていたガマに入りました。私たちはヘルメットを着け、懐中電灯を持って入りましたが、当時の人達にはそのどちらもありません。水がたれてきたり、水たまりがあったりで、滑って大怪我をした方もいるそうです。ガマの奥に着いたとき、一度、懐中電灯の光をみんなで消して真っ暗にしました。太陽の光も全く入って来ず、たった7秒の間だけ消したにもかかわらず、大きな不安が押しかけてきました。その中で生活するなんてもってのほかで、私は改めて「無理だな」と思いました。

この3日間がなければ仲良くなることのなかった友だちと出会えてよかったです。「平和な日々ってこのようなことかな」とも感じました。今回の沖縄での体験をこれからの生活にしっかり生かしていきたいと思います。そして、生きていけているこの今を当たり前だと思わずに、平和の尊さについて考えていきたいです。

長崎大学教育学部附属中学校 2年

私は、3日間の研修に参加して、嬉しかったことや、新たな発見がたくさんありました。1つ目は、友達が出来て仲良くなれたことです。初めは、知っている人がほとんどいなくて不安でしたが、班のメンバーや、違う班のメンバーともたくさん話して仲を深めることができ、とても嬉しかったです。

また、沖縄の中学生とも、少しだけ交流することができて嬉しかったです。2つ目は、沖縄戦についてです。事前学習はしていたけれど、実際に様々な資料を見たり、証言を聞いたり、ガマに入ったり、体験してみないと分からないことを見つけることができました。特に印象に残っている場所は、平和資料館とアブチラガマです。平和祈念資料館では、戦争で苦しんでいる人々の様子を写した写真や、当時の生活を再現した展示があり、沖縄での戦争がどのようなものだったかよく分かりました。

ひめゆり平和祈念資料館では、私たちと同じくらいの年齢で戦争を体験した方々の話を聞いて、とても胸が痛みました。想像できないような体験を聞いて、多くの人々に「戦争は絶対にしてはいけない」ということを伝えたいと思いました。また、1人1人の写真とエピソードがあり、体験した方々がどれだけ私たちに当時の状況や戦争の辛さを伝えたかったかが分かりました。アブチラガマでは、とても足場が悪く、水が落ちてきたりして、真っ暗にしたときは恐怖でいっぱいでした。これ以上ひどい環境で何カ月も過ごしたと思うと、とても辛いと思いました。平和学習の他にも研修の中で、沖縄の魅力や、自然の豊かさについてもたくさん学ぶことができとても面白かったです。また、沖縄に行って、平和について学んだり、沖縄の魅力を堪能したいと思いました。

土井首中学校 3年

私がこの3日間の平和学習を通して、特に印象に残っていることが2つあります。1つ目は、ひめゆり平和祈念資料館と糸数の壕（アブチラガマ）です。資料館では、ひめゆり学徒隊について深く学ぶことができました。学徒隊は15~19才までの女学生で構成されており、戦争で負傷した人達の手当てをしていました。また、糸数の壕では足場が悪く、とてもせまい空間でした。ライトをつけて、ゆっくりと道を確認しながらしか歩くことができませんでした。私と同じくらいの年齢の学徒隊が真っ暗なガマの中で治療をしていたと思うと、とても胸が痛みました。

2つ目は、平和祈念資料館です。沖縄戦は、長崎の原爆と違い地上戦なので兵士などのご遺体の写真がたくさん展示されており、とても生々しい光景のものも多くあり、改めて、戦争の悲惨さを感じることができました。

また、那覇市の中学生と交流したり、沖縄の方と話す機会が多かったため、沖縄の文化や歴史についてくわしく知ることができました。この研修で学んだことをこれからの生活に活かしていこうと思います。将来このような平和活動があればボランティアとして参加してみようと思います。

精道中学校 3年

今回、少年平和と友情の翼に参加し、たくさんの活動を行ったことで、たくさんのことを学びました。

1つ目は、沖縄戦のことです。アブチラガマに入って、その時の人々がどのような気持ちだったのかを感じたり、ひめゆり学徒隊の方々のことを知り、自分もその中の一員だったらどうしていただろうと考えたりしました。戦争は兵士の方だけでなく、一般の何の関係もない人々の家族をうば

い、住む家もうばい、そして大切な命をたくさんうばってしまうものなので、絶対に起こってはいけない、起こしてはいけないものだと改めて感じました。

2つ目は、どんな人であっても、仲よくなろうとすること、その人に対して敬意の心を持つこと、そして、仲よくなれなさそうな人であっても、自分はその人のことを「友達」と思うようにすることです。今後もっとたくさんの人々と交流する機会がどんどん増えていくので、この3つのことを心がけていきたいと思いました。

3つ目は、平和の大切さそして尊さです。私は自分の平和の目標を「苦手な人でも、その人のことを知り、理解し、認めて、少しでも好きになれるよう努力する」にしたのでこれを心がけて、自分にとっての「平和」を自分の手で少しづつつくりあげていきたいと思います。

「少年平和と友情の翼」を終えて

団長 長崎平和推進協会事務局長 中川 正仁

長崎平和推進協会が長崎市から委託を受けて実施している3年に1回の「少年平和と友情の翼」沖縄研修を無事に終えることができました。

今回は新型コロナウイルス第7波の中、実施できるのか心配しながら準備を進めてきましたが、7月10日の事前学習会、7月27日の長崎市長表敬を経て、8月18日予定通り出発することができました。

航空便の関係で長崎空港発でなく福岡空港発便利用となり、二泊三日という日程でも前回に比べ時間的に厳しいスケジュールを組まざるを得ませんでした。全員が体調を壊すこともなくすべての日程に参加することができて、本当に良かったとほっとしています。

この翼事業の大きな目的である沖縄戦や沖縄の歴史を学び平和の尊さを学ぶことについては、平和祈念公園をはじめ、ひめゆりの塔や糸数壕（アブチラガマ）などの戦跡巡り、地元沖縄の中学生との有意義な交流などにみんな真剣に取り組んでくれ、心に残る貴重な体験になったと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、本来なら楽しい食事や黙食となるなどの制約はありましたが、みんな決められた役割を果たし、約束を守って集団行動をしてくれました。改めて参加者全員に感謝します。

参加者の皆さんが沖縄で見て、聞いて、感じたことをきっかけに、今後自分なりの平和活動に取り組んでくれることを期待します。

高校生になったらぜひ青少年ピースボランティアに応募してください。

最後に、班リーダーを務めてくれた、青少年ピースボランティアの皆さん、引率の皆さん、添乗員さんありがとうございました。



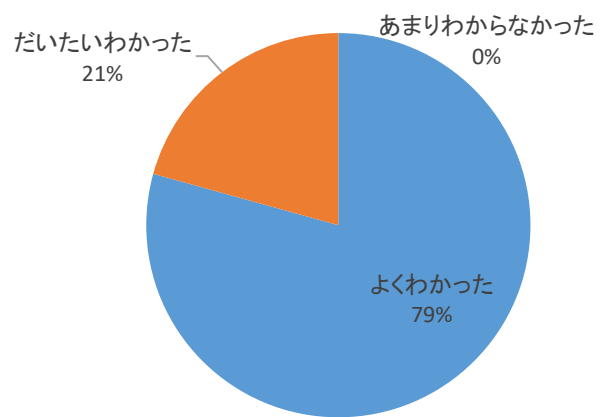
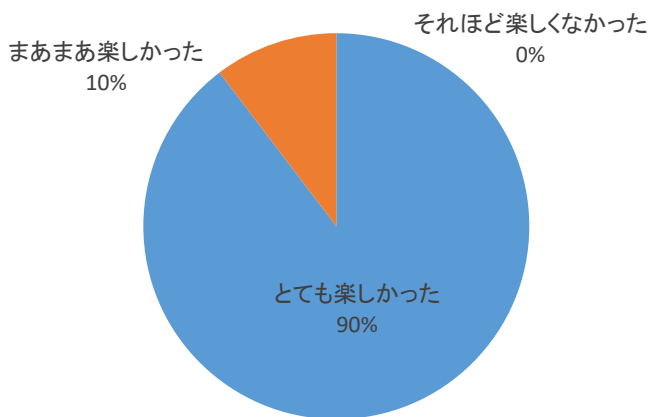
7. アンケートの結果

研修についてのアンケート結果

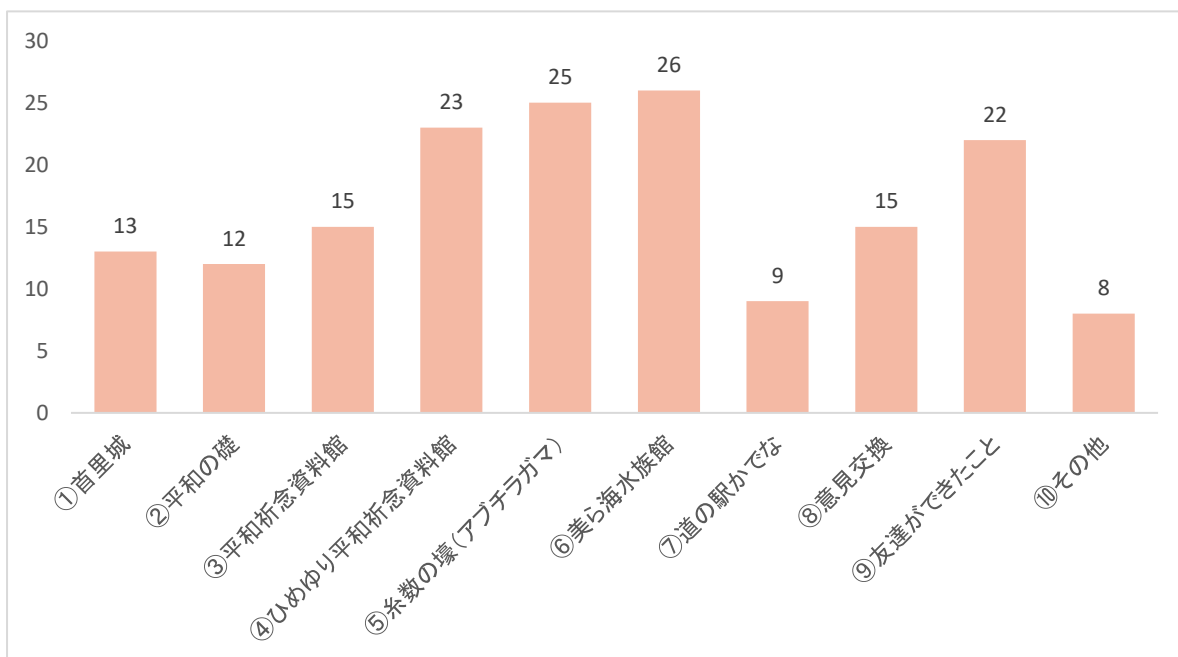
沖縄研修最終日に、この研修についてのアンケートを書いてもらいました。

質問 1 この研修に参加して楽しかったですか？

質問 2 研修の内容はわかりましたか？



質問 3 この研修の中で、印象に残ったことは何ですか？ (いくつ答えてもいいです)





令和4年度少年平和と友情の翼
発行 公益財団法人 長崎平和推進協会
発行日 令和4年10月